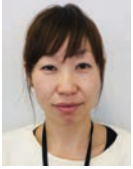


JSCA関西支部2017年度研修会



㈱コンステック
大植 奈緒子

今回のテーマは、近代日本を築いた「赤煉瓦建築物」について学ぶ、として舞鶴レンガパークの見学、舞鶴市建設部長の矢谷明也様の講演、その他舞鶴市の歴史に少し触れてくることができました。



(舞鶴赤煉瓦パークH.Pより)

1. 研修会1日目

研修1日目は、煉瓦パーク2号棟のホールにて矢谷様が講演されました。



主な内容は、現在の舞鶴市は、旧舞鶴市と東舞鶴市が合併してできたこと、旧海軍の主要施設として、工場・倉庫をはじめ砲台・隧道・橋梁・浄水施設などの煉瓦建築物が建設されたこと、そして現存する煉瓦建造物を残すために、煉瓦造建造物を使用すること、市民とともに転活用すること、を基本方針として取り組まれていることを教えていただきました。

具体的には、これらの歴史的建造物を利用して映画撮影のロケ地として活用(<http://akarenga-park.com/story/story-658/>)、イベントスペースではフリーマーケットの開催であったり、貸スタジオがあったりと、遠方から観光もできる場所となっており、市職員有志の自主的な取り組みによって行政による赤れんが倉庫活用の取り組みを垣間見ることができました。



舞鶴の歴史の1つとして「肉じゃがの原点は舞鶴にある」ことをご存知でしょうか。もしくは「肉じゃが戦争」をご存知でしょうか。明治34年に海軍舞鶴鎮守府初代司令長官の東郷平八郎がビーフシチューを食べたいがために作られたのが肉じゃがだそうです。しかし、肉じゃがが元祖・本家について呉市と争われており(肉じゃが戦争)、旧海軍四市グルメ交流会では、「舞鶴は肉じゃがの発祥の地」に対して呉市が「うちのほうが肉じゃがの本家だ」、といった様子が今も伺えるようです。

とても気になったお土産では、「海軍カレー」なるものがありました。海軍カレーを調べてみると、海軍のカレーライスレシピそのものが出てきます。



海へでると曜日感覚がわからなくなることから、休み前日のお昼ご飯はカレーライスと決められて、明日は休日ですよ、とお知らせするシステムだそうです。

2. 研修会2日目

赤煉瓦博物館を見学しました。古代メ

ソポトミア(紀元前2200年頃)の煉瓦から始まり、日本では中国や朝鮮半島から仏教建築の材料として始まりました。本格的に赤煉瓦の製造が始まったのは、フリードマンリヒ・ホフマンによるホフマン窯によって機械方式による輪窯での焼成へと革新されたことによります。ここでは、世界中の煉瓦に関する資料が展示され、フランス目地とイギリス目地の体験、国内れんがの刻印などを見ることができました。



北吸配水池(舞鶴旧鎮守府隧道施設)は、旧海軍が飲料水を確保するための施設です。水が濁らず流水となるように平面が蛇行形状に設計された建造物となっていました。わかりづらいですが、写真は、高所から鉄骨屋根と内部の蛇行形状を撮影しています。



3. おわり

最後に、歴史的建造物を残すためには、まずは建造物が構造上問題ないことが必要である、ということをお伝えいただきました。大阪周辺では、ミライザ大阪城やG-LION MUSEUM、など煉瓦造建造物がリノベーションされており、またそのうち見に行こうと思っています。

